

鳴門生徒指導学会
ホテル ザグランドパレス徳島
8月23日(日)9:30～

臨床心理部門 講演

タビストックで過ごした1年間
～英国で臨床心理学を学ぶことを考えている方へ～

北星学園大学
牧田浩一

本日のテーマ

タイトル

タビストックで過ごした1年間
～英国で臨床心理学を学ぶことを考えている方へ～

内容と目的

2013年度に英国ロンドンにあるタビストック・センターにて乳幼児の発達の研究を行う好機に恵まれた。そこで経験したことや学んだことを報告し、英国で臨床心理学を学ぶことを考える人への参考になればと考える。

タビストック・センター



タビストックとは

- **タビストック・センター**は
[ロンドン](#)北部の[ハムステッド](#)に位置する
力動的治療を専門とする[医療施設](#)であり、
[タビストック アンド ポートマンNHSTラスト](#)の配下にある。
教育や研修にも力を入れており、
[医師](#)、[サイコロジスト](#)、研修生合わせておよそ1000名近くが
在籍している。人間関係研究所など複数の研究機関を併設
している。

1920年にクリクトン・ミラーによって設立された。

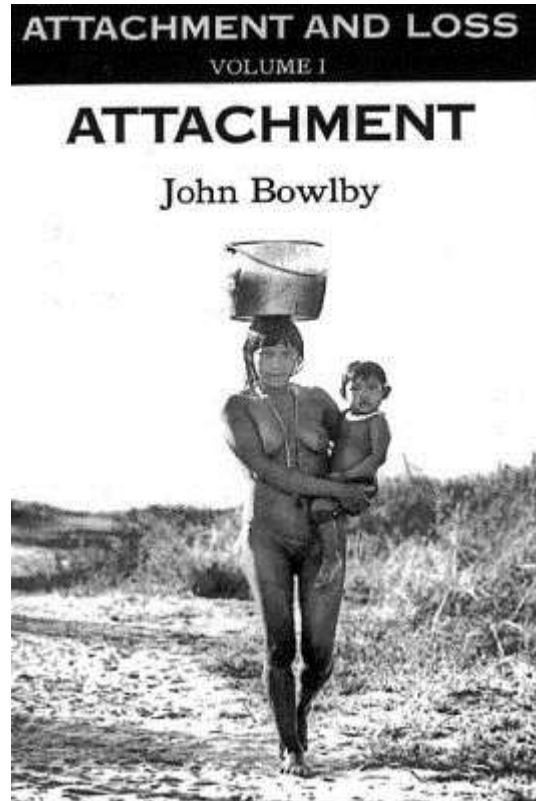
(Wikipediaより引用、一部加筆修正)

正式名称: The Tavistock and Portman NHS Foundation Trust ;
Training & Post Graduate Education Tavistock Centre

タビストックについて

- John Bowlby (1907 - 1990) was a psychoanalyst (like [Freud](#)) and believed that mental health and behavioral problems could be attributed to early childhood.
- Bowlby's evolutionary [theory of attachment suggests](#) that children come into the world biologically pre-programmed to form attachments with others, because this will help them to survive.

(From Wikipedia, the free encyclopedia)



John Bowlby Reading Room



Johnの功績を称えて



タビストックについて

- Psychologist Mary Ainsworth devised an assessment technique called the **Strange Situation Classification** (SSC) in order to investigate how attachments might vary between children.
 - The Strange Situation was devised by Ainsworth & Wittig (1969) and was based on Ainsworth's previous Uganda (1967) and later Baltimore studies (Ainsworth et al., 1971, 1978).

<参考文献>

Ainsworth, M.D.S (1962) The Effects with Maternal Deprivation: A Review of Findings Controversy in the Context of Research Strategy, in Deprivation of Maternal Care: A Reassessment of its Effects, Geneva, World Health Organisation Public Health papers, no.14

タビストックについて

- **Esther Bick**

Esther Bick's best-known contribution to psychoanalysis is her discovery of the potential of infant observation undertaken within the home over the first year or two of life to underpin the growth of a psychoanalytic perspective within the observer. Her interest in very early infantile states of mind and in the relationships between babies and their primary carers also led her to clinical concepts which enrich the psychoanalytic understanding of infantile anxieties and defences.

(Melanie Klein Trustホームページより)

タビストックについて

- **Melanie Klein** (March 30, 1882 in Vienna, Austria ~ September 22, 1960 in London, England)
- She met [Sigmund Freud](#) for the first time at the 1918 International Psycho-Analytic Congress in Budapest, which inspired her to write her first psychoanalytic paper, "The Development of a Child." The experience reinforced her interest in psychoanalysis and, after the end of her marriage in 1922, she eventually moved to Berlin to work with noted psychoanalyst Karl Abraham.

(Melanie Klein Trustホームページより)

タビストックについて

- フロイト

Sigmund born 6 May 1856 – 23 September 1939) was an Austrian [neurologist](#), now known as the father of [psychoanalysis](#). (From Wikipedia, the free encyclopedia)

- ナチズムから逃れるためウイーンからロンドンに娘のAnna Freudとともに亡命
- 最晩年をロンドンで過ごす Died:23 September 1939 (aged 83)



タビストックについて

- 論争の舞台

「子どもの心の治療」 Anna v Klein

- Donald Woods Winnicott(1896-1971)

イギリスの小児科医、精神科医、精神分析家。対象関係論の中心的な分析家だった。彼の有名なアイデアとして、移行対象、「本当の自己と偽りの自己」などがある(Wikipediaより引用)

私の留学の経緯と目的

- Infant Mental Health(M9) & Psychoanalytic Observation Studies(M7)
 - 15年前、大学院生だった私は、児童養護施設に暮らす子どもたちと初めて出会った。それ以来、彼らの心に関心を寄せ、今日に至るまで彼らの心理療法に携わってきた。彼らのなかには極めて情緒が不安定な子どもや、発達障害を抱える子どもがおり、そのような子どもたちへの遊戯療法は難しく、苦悩の連続だった。長期にわたる彼らとの関わりを通じて、乳幼児期からの発達過程における課題が明らかになると同時に、人間の発達についてさらに研究する必要性を強く感じた。そして、知識や技術の研鑽を積まなければならない時期に来ていると痛感していた。
 - しかし、同時に国内でのケース研究、臨床経験を積んでいく中で、どうしても行き詰まりを感じるようになり、そんな自分の臨床経験や見解を見直し、視野を広げるために、海外での研修を切望するようになった。言葉も慣習も異なる土地に身を置くことで、自分の客観的観念や思考傾向に影響が表れることを期待した。そして、自分自身の変化が、今後の臨床において何らかの糧になるのではないかと思った。そこで、英国ロンドンにあり乳幼児の発達を研究できる機関として、愛着理論を発展させたジョン・ボウルビー(Bowlby.J)や「乳幼児観察法」の臨床的実践と研究において世界的にリードするエスター・ビック(Bick.E)が所属していたことでも知られるタビストックを留学先とした。
- (拙著<海外レポート>タビストックで過ごした一年間ー海外で臨床心理学を学ぶことを考えている方へー遊戯療法学研究)

タビストックにて

エマニュエル博士との出会い

Dr Louise Emanuel (PhD) is a Consultant Child and Adolescent Psychotherapist, working in the Child and Family Department of the Tavistock and Portman NHS Foundation Trust. She is Head of Local Under Fives Services, and Co-Convenor of the weekly Infant Mental Health Workshop, run as part of the Child Psychotherapy training. She also has experience in consultation to organisations caring for children.

タビストックにて

- 私が受講したセミナー

セミナーの名称	セミナー・リーダー
Child Development Research	Graham Music/Phillip McGill
Theoretical Overview 1	Anna Fitzgerald
Theoretical Overview 2	Danny Goldberger
Infant Observation	Sue Reid, Kate Stratton
Specialist Observation	Sara Rance, Christine Porter
Young Child Observation	Claudia De Canpos
Work Discussion/Infant Mental Health Group	Louise Emanuel

乳幼児観察

- ビック(1962、1964)は、タビストック・クリニックに在籍中に乳幼児観察の有用性を提唱した。平井(2009)によるとビックは、乳幼児観察を心理療法家の訓練として導入する意義を以下のように挙げている。第一に「観察者に強烈な情動に満ちた乳児の心の世界を経験させることで、患者や自分自身の中にある乳児的部分」を知ることができる。第二に「観察者は非言語的な表現に対する感受性」が高められる。第三に「乳児の発達について具体的な理解が得られ、母親面接をする際に役に立つ」という。

<タビストック方式の乳幼児観察>

- 週1回50分間 乳児のいる家庭出向き観察
- 乳児が出生直後から2年間継続

<参考文献>

- Bick E.(1962): Child analysis today. International Journal of Psycho-Analysis. 43. 今日の子どもの分析. 松木邦裕(監訳)、日下紀子(訳)(2000):メラニー・クライン トウデイ③. 岩崎学術出版社.
- Bick E.(1964): Notes on infant observation in psycho-analytic training. International Journal of Psycho-Analysis vol.45.

乳幼児観察のセミナーを受講して

- 乳幼児とは、非言語的な方法でコミュニケーションを図らなければならない。そのため、彼らの感情やメッセージを敏感に察知するための感覚を鍛える必要がある。本セミナーではそうした感覚を養うのにとっても役立った。
- 乳幼児観察では観察者が乳幼児のシグナルを受けて、その感情に同調したとき、強い情緒に押し流されてしまいそうになることがある。しかし、観察者としては中立性、客観性、独立性を保つように努めなければならない。例を挙げれば、乳児観察中に赤ちゃんが泣き叫んでも、観察者は手出しをしてはならない。これは思いのほか観察者には苦痛である。母親が対処するまで、その苦痛に耐えながら乳児の感情を察知しなければならない。この体験は、成人の心理療法におけるセラピストの心情に類似する。つまり、赤ちゃんのシグナルに同調する状態は、心理療法における共感と同義であるように思う。そして、乳幼児観察における重要な目的は、同調または共感しつつ、中立性を保つことで、観察者自身の乳幼児的部分を客観的に再認識できるよう訓練することなのだと思う。

(拙著<海外レポート>タビストックで過ごした一年間―海外で臨床心理学を学ぶことを考えている方へ―遊戯療法学研究)

分析体験

- タビストックでは訓練生が分析を受けることを「Personal Analysis (個人分析)」と呼んでいた。
- 私が所属したコースでは必須ではなかった。
- 心理療法に関わるコースに進むためには、分析を週4回以上受けていることが条件。
- 心理療法を行うものとして、分析を受けることが必須と考えていた。

分析体験

- フリーダ・フォーダム

『An Introduction to Jung's Psychology』

“...it is greatest importance that the analyst himself should have been analysed.”

- フォーダムの著書の注には「このことを最初に明瞭に認識したのはユングだった。そしてフロイトは直ぐ同意した」と記されている。

<参考文献> 大塚信一『河合隼雄 心理療法家の誕生』トランスビュー(2009)

分析体験

- フォーダムの続き “The analyst must know his own shadow and have had experience real experience of the unconscious forces which he is now helping his patient to face. He cannot evade his own difficulties by trying to care other people, he must first cure himself.”

(分析家は自身の「影」を知らなければならない。と同時に、彼が現在、患者にそれと直面するように手助けしている無意識の力について、予め体験していなければならない。分析家は他人をケアすることで自身の「困難」を避けることはできない。彼はまず、自分自身を治療しなければならない)

• 自由連想と夢解釈による 無意識の探索

- マイヤロウイツ博士は、いつも誠実であった。私を持ち上げることもなければ、貶めることもなかった。いつも中立で正直であった。その姿勢から心理臨床家としての在り方を見て取ることができた。マイヤロウイツ博士は、初回分析で「6ヶ月間の分析では無意識の世界を探索するには至らないだろう」と言った。日本へ帰る準備を始めた分析の終盤、私は6カ月の分析体験を振り返って「短かい期間だったが、それでも無意識の世界を探索し得た」と述べると、「その通りだ」とうなずいた。この分析体験が、タビストックで過ごした1年間の中でも大切な経験となった。(拙著<海外レポート>タビストックで過ごした一年間ー海外で臨床心理学を学ぶことを考えている方へー遊戯療法学研究)